



未来を夢見て

2020/7/13 No. 22

昔を今に I 『殿、利息でござる』

7月7日（火）大和町社会教育委員会議があり、後半、『国恩記の九人』のYouTube動画の紹介がありました。

大和町に伝わる「国恩記」の史実をもとに、子どもたちに楽しく郷土について知ってほしいという思いを込めてつくられた紙芝居で、学校にも2セット届けられています。

ところで『国恩記』と聞くと「？」という方もいるかと思いますが『殿、利息でござる』と聞くと「！」となる方も多いのではないのでしょうか（原作は『無私の日本人』磯田道史著）。2016年に公開された同名映画のタイトルです。主演は阿部サダヲさん、あの羽生結弦選手もゲスト出演して話題になりました。

その元になっているのが『国恩記覚』という資料集です。その資料が磯田さんによってまとめられた経緯については省略しますが、吉岡地区だけでなく、大和町に住む子供たちには是非知っておいてほしいお話です。

時代は繰り返される、と言いますが、時に先人の思考や行動は今を生きる私たちに大きな示唆を与えてくれることもあります。

さて、上から3番目は、本校でも採用している東京書籍デジタルコンテンツから6年生社会（歴史編）の掛図です。先生方ならこの掛図が意味していること、お分かりですね。

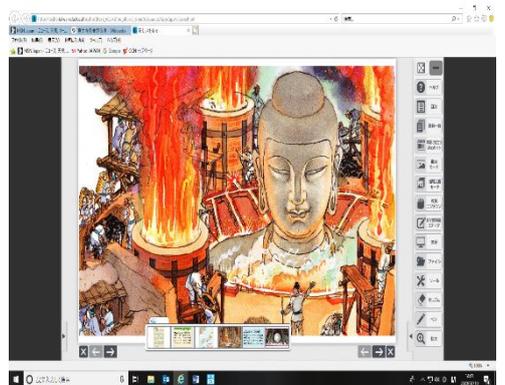
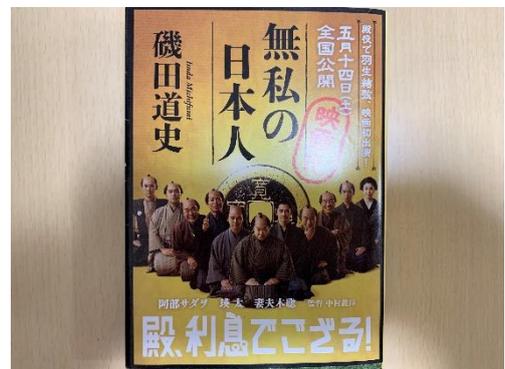
そうです、「大仏つくり」の様子です。詳しい説明は省いて、この大仏が創られた背景の一つに、当時「天然痘」が大流行したことがあげられています。天然痘について、国立感染症研究所のHPに詳しく紹介してあります。ワクチンの開発によりWHOから天然痘の世界根絶宣言が出されたのが西暦1980年、奈良の大仏が創られ始めたのが西暦745年ですから、この数字だけからも天然痘との戦いが実に長い戦いだったことが分かります。

私たち人類の歴史の中で、感染症との戦いは他にも、ペスト菌やインフルエンザなどがありました。そして、その都度、尊い生命が奪われながらも、最前線で必死で戦っている人たちがいました。

今、私たちは過去の歴史の中ではなく、現実に新型コロナウイルス感染症の猛威と戦う毎日です。ここ数日、東京でも感染者が増え、宮城県内でも新たに感染者が報告されています。

新しい生活様式で学校生活を送らなければならない子供たちだからこそ、大仏に願いを込めた当時の人々の思いが伝わるのではないのでしょうか。

7月10日（金）の給食はハヤシライスでした。なかなかハイカラな味がして大変おいしくいただきました（それにしても大和町の給食は美味ですね）。少し懐かしいハヤシライスをいただきながら穀田屋十三郎、中根東里、太田垣蓮月、大仏つくりに関わった方々、北里柴三郎そして野口英世、昔に思いをはせるひとときとなりました。



（文責：手代木）